

経験と独創的なアイデアが結びついて生まれた J-DAG は、だるまの中でいろいろな意見交換しましたが、専門家の検証が望ましいのではとの意見がありました。

「消防防災科学センター」では自治会の職員への防災教育の中に「防災図上訓練」の活動があり、電話照会したところ、話を聞いていただけるという「奇跡」が起きました。その結果、談義の会に同センターの飯塚智規先生に参加いただきました。早速三鷹の事務所に伺いご意見やアドバイスを聞くことができました。

飯塚智規先生が異動された城西大学でも学生への J-DAG 講座が行われ、だるまも支援しました。

2021 年 10 月には「相模原防災マイスター」の J-DAG 指導者スタッフ養成研修（ファシリテーター養成）が行われ、だるまから 8 名が参加しています。

3 ネットワーク活動

【1】支援活動

直下地震による県西部の被害の甚大さへの対応として、大井町と周辺の防災対策に荏本先生を中心に養成講座を開催してから 10 年、今では自立しています。

平塚でも市と地域が連携して防災体制を構築し、周辺の拠点となっています。

会員による地域の防災活動への支援に加え、新たに J-DAG の普及でネットワークは広がり、横浜市中区や相模原市での活動、神奈川県建築士会女性委員会とのつながりが出来たことで、関東周辺にネットワークが広がりました。

【2】地域まちづくりへの参加・協力活動

行政・関連団体へは、地域のパイプ役として防災活動の情報交換と連携で、下記のような多様な活動を実施してきています。

防災・減災に関する意見提案：神奈川県国土強靱化地域計画（素案）、横浜市防災計

画「地震対策編」修正への市民提案、横浜地震防災市民憲章・行動指針素案への意見書提出など

- ・横浜市危機管理セミナーへの参加
- ・神奈川コミュニティカレッジ「防災・減災に強いまちづくり」全 3 回参加
- ・二宮町防災ワークショップ クロスロード、はやま防災ネットワークへの協力ー避難所運営ゲーム、HUG 体験会、J-DAG 体験会
- ・横浜市男女共同参画センターの、「ヨコハマわたしの防災カノート」の編集に協力

<各団体への支援>

- ・自治会、学校、ケアプラザで防災講座や講演会、避難所運営ゲーム HUG や J-DAG で協力。
- ・横浜商工会議所「Bosai2014 および 2015」の横浜青年会議所の活動で当会の宣伝と J-DAG を実施
- ・神奈川大学で行われた土木学会行事に参加
- ・横浜市中区連合自治会の地区連別減災対策事業への協力でまち歩き、防災マップ作成を実施
- ・日本建築学会では、2021 年 11 月に荏本先生が地盤の振動特性から災害リスクを読む講演を行ないました。特に神奈川県建築士会女性委員会から依頼を受けて、東京、神奈川、千葉、茨城各地で HUG、クロスロード等が実施されました。

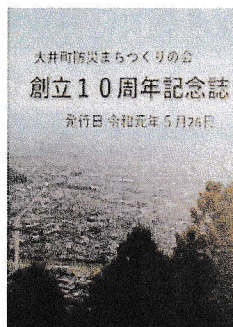
【3】県西部で市民協働事業への協力

遠方からの参加が難しい神奈川県西部の大井町、開成町等での講座運営には養成講座の卒業生が関わり、だるまでも協力しました。

大井町（大井町防災まちづくりを推進する会）とは秦野交流合宿（松田町防災講座支援）、情報交換会と展示見学、地元定例会には荏本先生以下特別参加も行ないました。その後も、防災フェスティバルへの参加、

地域防災活動リーダー養成講座などに協力しながら、講演や交流が行われました。

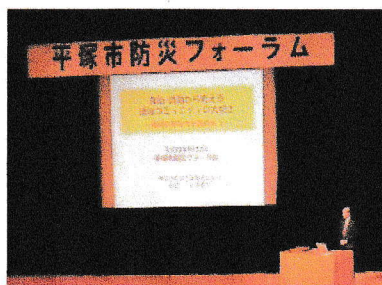
その経過は「大井町防災まちづくり」事務局長の山田富士男さんからの報告レポートを参照ください。



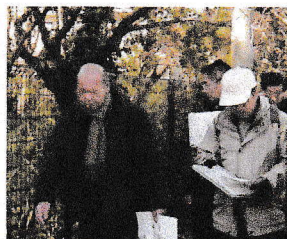
【4】平塚でのネットワーク活動

「ひらつか防災まちづくりの会」では、2009年から4年間市の危機管理課と協働事業を実施しました。中央公民館で開催しました。

防災フォーラムでは、平塚の地盤や地形からの災害リスクについてや全自治会への防災アンケート結果分析などについて荏本先生講師で基調講演を実施しました。



また、荏本先生は、防災まち歩きや様々な市民向けの研修やワークショップでの指導に尽力いただきました。



だるまメンバーはネットワーク力をいかして防災ゲームのファシリテーターを担当し平塚市の「域防災活動者育成研修」をサポートすることができました。

4 大学と地域との連携貢献事業

【1】神奈川大学を中心とした活動

だるまは大学内の行事や関連行事には、ほとんど参加したり協力してきました。



また学校防災の個別支援や講演、ゲームも行いました。今後は学校防災と地域防災が連携する「総合的防災まちづくり構想」への展開が期待され、いくつかのシンポジウム等により充実されてきています。

大学と地域を結ぶ「かながわ人と智をつなぐ防災-減災ネットワーク」(通称「人と智ネット」)により、つながりを強固にする活動も行っています。

【2】神奈川大学キャンパスでの活動

東日本大震災を契機に「神奈川大学大規模災害対策研究プロジェクト」連続講演会、地域貢献としての大規模災害講演会が毎年開かれ、だるまの会員が参加してきました。

2016年

11月18日

神奈川大学防災フェアが開催され、荏本研究室とだるまの共同ブースを開設しました。



神奈川大学では東日本大震災でボランティアバス活動「KU 東北ボランティア駅伝」を2011-2016年に215便を送り出し、談義の会で発表していただきました。